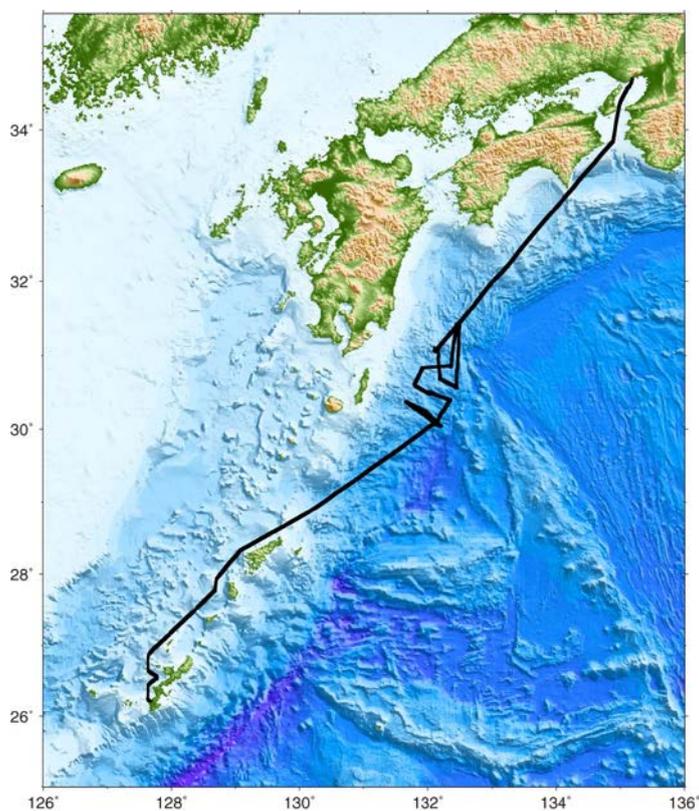


提出日：2017年8月10日

クルーズサマリー

1. 航海情報

- (1) 航海番号 YK17-16C
- (2) 船舶名 「よこすか」
- (3) 航海名称 平成29年度 所内利用(受託等)受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」
- (4) 首席研究者 高橋 努[海洋研究開発機構]
- (5) 課題代表研究者 小平 秀一[海洋研究開発機構]
- (6) 研究課題名 受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」：
巨大地震発生域調査観測研究 1 広帯域自然地震観測・海域構造調査
- (7) 航海期間
平成29年7月24日(月)～平成29年7月28日(金)までの5日間
- (8) 出港地～寄港地～帰港地
[神戸]～[那覇]
- (9) 調査海域名
南西諸島海域
- (10) 船舶の航跡図



2. 実施内容

(1) 調査概要

南西諸島では地震観測点が島嶼部に限られているため、定常的な地震活動や地下構造について十分には解明されていない。受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」内の「巨大地震発生域調査観測研究」調査観測分野では、九州から南西諸島海域における地震活動や沈み込み帯の構造、地震発生の構造的背景を明らかにすることを目的として、自然地震観測や制御震源による構造探査などを実施している。本航海では、日向灘と南西諸島北部（種子島東方海域）において広帯域海底地震計などの設置・回収を行い、これらで記録される地震動や水圧記録を用いて日向灘から種子島東方海域で活動が活発な低周波地震やスロースリップ現象などの実態を解明する。

(2) 実施項目

(a) 海底地震計の回収・設置

日向灘に設置された東京大学地震研究所の長期観測型海底地震計 8 台を回収した。また種子島東方海域において、東京大学地震研究所の長期観測型海底地震計 6 台と海洋研究開発機構の広帯域海底地震計 4 台を設置した。広帯域海底地震計にはスロー地震現象に伴う海底地殻変動などを観測するため、微差圧計と小型水圧ロガー（RBR 社製 TD10000）を搭載している。

(b) 海底地形・重力・地磁気観測

調査中はマルチビーム音響測深器による海底地形データや重力・地磁気データを取得した。